庫県立がんセ

歩する 消化器がん治療

+

当提13

- 1. 「内視鏡で治るがん」 消化器内科医長 山本 佳宣
- 2. 「がんの手術を腹腔鏡で!?」 消化器外科医長 川崎 健太郎
- 3. 「抗がん剤と放射線で切らずに治るがん」消化器内科部長 堀田 和亜
- 4. 「進歩する抗がん剤」 消化器内科医長 津田 政広
- 5. 「地域で支えるがん診療」地域医療連携部課長 大西智美

(開会13:30~閉会16:50)

レバンテホール

申込み方法

次のどちらかの方法でお申し込みください。 先着350名様に参 加証をお送りします。

- 1) FAXまたは往復はがきにて申し込まれる場合 申込者の住所氏名・FAX 番号をご記入のうえ、下記へお申し 込みください。参加証を FAX で返信します。2人以上で参加 を希望される場合は、参加される方全員のお名前をお書きく ださい。(はがきの場合、返信用に住所氏名をお書きください)
- 2) 当院にて申込まれる場合 申込者の住所氏名・FAX 番号をご記入のうえ、当院がん相談 支援センター受付にお出しください。参加証をお渡しします。

申込み先

〒673-8558 明石市北王子町13-70 兵庫県立がんセンター総務部 がんフォーラム事務局宛 FAX.078-929-2380

お問い合せ

兵庫県立がんセンター総務部 がんフォーラム事務局 TEL.078-929-1151(代) http://hyogo-cc.jp/







- ●参加対象者/一般 定員350名(FAX等による事前申込みが 必要。定員になり次第締め切ります)
- ●入 場/無料(整理番号を記入した参加証ご持参の方)
- 主 催/兵庫県立がんセンター
- ●共 催/兵庫県がん診療連携協議会
- 援/兵庫県医師会、神戸市医師会、明石市医師会、 ●後 兵庫県看護協会

兵庫県立がんセンター第9回 がんフォーラム

1 テーマ 進歩する消化器がん治療

2 日 時 平成 22 年 2 月 20 日 (土曜日) 13:30~16:50

3 会 場 レバンテホール (レバンテ垂水 2 番館 3 階)

4 参加対象者 一般県民、医療関係者(定員350名)

5 入 場 料 無料(受付番号を記入した参加証を送付しますので、参加証を持参ください。)

6 プログラム

◇開 会 13:30

司会: 兵庫県立がんセンター 副院長 井口 秀人

◇講 演 13:30

(はじめに)「開会挨拶」 一今後のがん医療とがん予防について一

兵庫県立がんセンター院長 西村 隆一郎

(第1部) 13:40 ~

講演1「内視鏡で治るがん」(30分)

兵庫県立がんセンター消化器内科医長 山本 佳宣

講演2「がんの手術を腹腔鏡で!?」(30分)

兵庫県立がんセンター消化器外科医長 川崎 健太郎

講演3「抗がん剤と放射線で切らずに治るがん」(30分)

兵庫県立がんセンター消化器内科部長 堀田 和亜

(休 憩 15:10 ~ 15:20)

(第2部) 15:20 ~

講演4「進歩する抗がん剤」(30分)

兵庫県立がんセンター消化器内科医長 津田 政広

講演5「地域で支えるがん診療」(30分)

兵庫県立がんセンター地域医療連携課長 大西 智美

質疑応答 (16:20~16:40)

◇閉 会 16:40「閉会挨拶」

兵庫県立がんセンター副院長 足立 秀治

8 申込先/お問合せ

〒673-8558 明石市北王子町 13-70

兵庫県立がんセンター総務部 がんフォーラム事務局 あて

TEL: 078-929-1151 (代)、 FAX: 078-929-2380

E-mail: jimukyoku@hyogo-ganshinryo.jp

9 主催/共催/後援等

主催: 兵庫県立がんセンター 共催: 兵庫県がん診療連携協議会

後 援:兵庫県医師会、明石市医師会、神戸市医師会、兵庫県看護協会

進歩する消化器がん治療

兵庫県立がんセンターは、県下のがん医療に関する中枢医療機関として、県民の 皆様のがん治療に積極的に取組んでいます。

一方、がん検診受診率や精密検査受診率については、兵庫県は全国的に見ても低く、がんの知識や治療についての県民に対するさらなる啓蒙活動が必要と考えています。

兵庫県立がんセンターでは、県民の皆様を対象にがんに対する知識の普及・啓発 を目的とした院外活動として、『市民フォーラム』を定期的に開催しています。

このため、平成 22 年 2 月 20 日(土)に第 9 回がんフォーラムを開催いたしました。

垂水勤労市民センター「レバンテホール」を会場として、250名の方がご参加され、質問にもお答えさせていただきました。

今回のテーマが食道・胃・大腸といった比較的日頃から関心の大きい消化器系の がんを扱ったためか、参加者の方々からも多くの質問が寄せられ熱心な質疑応 答がありました。